



高岡流綱火

8月27日(日) 午後7時～
高岡愛宕神社 (高岡 631)



祭 礼の夜。今にも神社が燃えんばかりに、手製の花火であたり一面火の海となる「くりこみ」が始まるのが、高岡地区に伝わる高岡流綱火だ。毎年8月下旬、高岡地区の愛宕神社に、火難と病難除け・家内安全・五穀豊穡を祈願して奉納される。

この行事は、江戸時代の初頭から続いており、これを中止すると地域に不幸が起ると言われている。鎮守の祭りの際に大樹から赤と黒の蜘蛛が舞い降り、巣をつくる様子から村人が創作したと伝えられている。今でもその技術は、「高岡流綱火更進団」が継承し、その伝統を守り続けている。

今回は、更進団・団長の飯田勇さんと、更進団の団員である渡邊弘さん、富山薫さんに話を伺った。